

概観

【政治・社会】

- ・4日、ボリソフ首相はブリュッセルを訪問し、ユンカー欧州委員会委員長、トウスク欧州理事会議長、ドール欧州人民党（EPP）党首と会談した。
- ・15日、ボリソフ首相はドイツを公式訪問し、メルケル独首相と会談した。

【経済】

- ・1日、トルコ訪問中のロシアのプーチン大統領は、現状ではロシアはサウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画を開始することができないと述べ、同計画の中止に言及した。
- ・4日、11月6日に認可が取り消されたコーポレート商業銀行（CCB）の保証預金の払い出しが9つの銀行で開始された。
- ・19日、国民議会の第二読会において2015年度国家予算案が可決された。2015年における財政赤字額は対GDP比3%とされた。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

（1）国民議会の動き

◆愛国戦線の議員1名が無所属に

▶1日、愛国戦線のヴェリザル・エンチェフ議員が同党議会議会派から離脱し、無所属議員となった。シメオノフ共同党首によると、同氏は党からも追放された。同氏は、GERB（「ブルガリアの欧州における発展のための市民」）のツァチェヴァ国民議会議長選出及びボリソフ首相選出に反対票を投じたため同党から非難されていた。同氏は、愛国戦線はGERBと改革派ブロック（RB）と組むことにより投票者を裏切ったため自分は議会議会派を離脱する、と述べた。

◆ビネフ議員の文化メディア委員会委員長選出問題

▶2日、愛国戦線のスラヴィ・ビネフ議員は、記者会見において、国民議会の文化メディア委員会

委員長を辞任するつもりはないことを明らかにした。ビネフ議員の委員長選出を巡っては、同氏がチャルガ（ポップ・フォーク音楽）クラブ「BIAD」の元オーナーであることから、抗議が起こっていた。

▶3日、ソフィア市では、ビネフ議員の委員長選出に反対する抗議行動が行われ、俳優等が参加した。

▶8日、ビネフ議員は、抗議を受け、文化メディア委員会の委員長を辞任し、12日、愛国戦線のポリナ・カラストヤノヴァ議員が後任委員長に選出された。

▶16日、ビネフ議員はEU基金管理に関する小委員会の委員長に選出された。

◆「検閲のないブルガリア」の5議員が離党

▶13日、「検閲のないブルガリア」のロセン・ペトロフ議員（元テレビホスト）が離党した。しかし、同議員は議会議会派「ブルガリア民主センター」

には留まる。

▶29日、同党の議員4名が離党した。しかし、4名とも議会会派には留まる。離党したのはステファン・ケノフ議員、ゲオルギ・コヴァチェフ議員、ボリスラフ・イグレフ議員、フリスト・トドロフ議員であり、バレコフ党首の一貫性のなさを離党の理由としている。

(注:12月末時点の議会会派は、GERB84, BSP(ブルガリア社会党)左派ブルガリア39, MRF(「権利と自由のための運動」)36, 改革派ブロック23, 愛国戦線18, 「ブルガリア民主センター」14, ABR(「ブルガリアの復興のためのオルターナティブ」)11, アタッカ11, 無所属4となった。)

◆バレコフ氏が「検閲のないブルガリア」連合の代表を辞任

▶22日、ニコライ・バレコフ氏(欧州議員)は「検閲のないブルガリア」(注:現在の議会会派名は「ブルガリア民主センター」(BDC))の代表を辞任した。同氏は20日、同議会会派に対する無条件支持を撤回していた。なお、同氏は引き続き「検閲のないブルガリア」党首に留まる。

(2) その他

◆アフガニスタンにおけるNATOのISAF任務の終了

▶28日、アフガニスタンにおけるNATOの国際治安支援部隊(ISAF)の任務が終了した。2015年からは「確固たる支援」任務に移行する。

▶最初のブルガリア部隊は2002年に派遣され、カンダハル空港の護衛にあっていた最後の部隊は2014年12月に帰還した。任務期間中、延べ8,000名を超えるブルガリア兵が本任務に従事し、約1,000名の医師がカブール、カンダハル、ヘラートの軍事病院で医療活動に従事した。なお、本任務によるブルガリア兵の死亡者はいない。ISAF任務の完了に伴い、アフガニスタンには110名のブルガリア兵がアフガン治安

部隊の訓練のため残留する。

2. 外政

◆ミトフ外相:NATO外相会合出席

▶2日、ミトフ外相はブリュッセルで開催されたNATO外相会合に出席した。また、同外相は、米国のケリー国務長官と最近の国際問題の進展について協議した。

◆ボリスフ首相のブリュッセル訪問

▶4日、ボリスフ首相はブリュッセルを訪問し、ユンカー欧州委員会委員長、トウスク欧州理事会議長、ドール欧州人民党(EPP)党首と会談した。

▶ユンカー欧州委員長は、会談後の記者会見において、欧州委員会が2007年にブルガリアに適用した司法及び汚職・組織犯罪対策の進展に関する協力・検証メカニズム(CVM)は、2019年までに終了するだろう、と述べ、自分の任期中のCVM終了を約束した。また、同欧州委員長は、ブルガリアは欧州という家族の一員である、欧州の家族はブルガリアの現在の地政学的な困難に対する解決の模索を支援している、と述べた。

▶また、ユンカー欧州委員長は、サウス・ストリーム計画に関し、(注:1日、トルコ訪問中のプーチン露大統領は同計画の中止に言及した)EUとブルガリアは問題の解決に向けて共に動いている、本問題は克服できないものではなく、我々はブルガリア及び欧州にとって最善のを行うべきである、と述べた。

▶ボリスフ首相は、ブルガリアは名指しでサウス・ストリーム計画に問題を引き起こしていると言われてはいるが、これは不当である、なぜなら欧州委員会はパイプラインが通過する6カ国の加盟国の名において交渉しているからである、(本計画の)準備活動は停止されていない、プーチン大統領のアンカラでの発言は問題が明確になる前に故意に行われたものである、と述べた。

▶ドール欧州人民党党首との会談において、ドール党首はサウス・ストリーム計画に関し、欧州は

プーチン大統領のプロパガンダに屈しない、本件に関する決定は欧州レベルで行われなければならない、と述べた。これに対し、ボリスフ首相は、欧州委員会がより明確な立場を示すことへの希望を表明した。

◆グエン・ベトナム国家副主席のブルガリア訪問

▶4日及び5日、ベトナムのグエン・ティ・ゾアン国家副主席がブルガリアを訪問し、プレヴネリエフ大統領と会談した。同大統領は会談において、ブルガリアのベトナムへの投資増大を予測した。なお、2015年は両国の外交関係樹立65周年となる。

◆ミトフ外相：EU外務理事会出席

▶14日から16日にかけて、ミトフ外相はブリュッセルで行われたEU外務理事会及び総務理事会に出席した。同外相は、総務理事会において、良い隣国関係はEU加盟候補国の加盟準備における重要要素である、と述べるとともに、セルビアとの加盟協議の開始はEU関係の新たなステージである、一方でマケドニアはコペンハーゲン基準遂行における後退が見られ、ブルガリアとの善隣協定に関する進展もなかった、と発言した。

◆ボリスフ首相のドイツ訪問

▶15日、ドイツを公式訪問中のボリスフ首相は、ベルリンで同国のメルケル首相と会談した。メルケル首相は、ブルガリアは困難な経済状況にあり、それゆえに我々が緊密に協力することが重要である、新政府は汚職・組織犯罪対策のような改善が必要とされる事柄に着手しようとしているとの印象を持っている、と述べた。

▶メルケル首相は、会談ではエネルギー供給関連問題に焦点が当てられ、ドイツはあらゆる可能な面からブルガリアを支援することで合意した、と述べるとともに、サウス・ストリーム計画に関しては、全ての法的な問題が明確にされるべきであり、立場はロシアとの対話の中で決定されるべき

である、と述べた。また、メルケル首相は、EUはサウス・ストリーム計画を拒否したことはない、EU内のどの国も本計画を停止していない、状況の進展に関し、現行法に基づいてロシア側と誠実な対話が行われるべきである、と述べた。両首相は、ブルガリア政府及びロシア政府は、ブルガリアが契約不履行となることを避けるため、サウス・ストリーム計画の契約及び活動を継続すべきである、との見解で一致した。

▶また、ボリスフ首相は、今週後半の欧州理事会で、ブルガリアにおけるガス配給ハブ施設の設定についてのアイデアを提案する予定である、と述べた。

◆バチヴァロヴァ副首相：第3回中欧・中国首脳会合出席

▶16日、バチヴァロヴァ副首相は、ベオグラードで開催された第3回中欧・中国首脳会合（「16+1」）に出席した。同副首相、パブロヴァ地域開発相、モスコフスキ運輸相は、同会合の枠組みで、セルビアの閣僚と会談を行った。バチヴァロヴァ副首相とセルビアのリュイッチ副首相兼貿易・通信相は、二国間経済協力の深化やブルガリア、セルビア及びルーマニアの共同観光センターを中国に開設する機会について協議した。

◆ポポヴァ副大統領：モロッコ訪問

▶17日及び18日、ポポヴァ副大統領はモロッコを訪問し、同国のベンキラン首相、メズアール外相等と会談した。

◆ボリスフ首相：欧州理事会出席

▶18日、ボリスフ首相はブリュッセルで開催された欧州理事会に出席した。同理事会では、成長、雇用及び競争力の強化について協議された。また、ボリスフ首相は、同理事会の枠組みで、キャメロン英首相と会談した。

経 済

1. マクロ経済

(1) 全般

◆第三四半期のGDP成長率は前年同期比1.5% (暫定値)

▶3日発表の国家統計局の暫定統計によると、2014年第三四半期の名目GDPは228.4億レヴァとなった。ユーロ換算では116.8億ユーロ、一人当たりGDPは1,616ユーロとなる。季節調整後の統計によると、2014年第三四半期のGDP成長率は前年同期比1.5%、前期比0.4%となる。

◆11月のインフレ率は前月比マイナス0.4%

▶15日の国家統計局の発表によると、11月のインフレ率は前月比マイナス0.4%のデフレとなった。また、前年同月比ではマイナス0.6%となった。過去11ヶ月間のうち8ヶ月間はデフレを記録し、インフレを記録したのは4月、7月、10月のみである。11月のデフレは、ガソリン(マイナス5.8%)、ディーゼル(マイナス5.6%)、いくつかの基本食料品の価格引き下げによる。燃料の価格引き下げは国際市場における原油価格の低下によるものである。

◆10月までの外国直接投資は約8億ユーロ

▶15日発表のブルガリア中央銀行(BNB)の統計によると、1月から10月までの期間における外国直接投資(FDI)は8.1億ユーロとなり、前年同期比で5億ユーロ減少した。同期間におけるブルガリアへの投資はオランダ(2.3億ユーロ)からが最大だった。また、ブルガリアからの最大の投資先はドイツ(2.1億ユーロ)だった。

◆2015年度国家予算案の可決

▶19日、国民議会の第二読会において2015年度国家予算案が可決された。同案によると、歳

入は合計18,247,592,900レヴァを見込む一方、歳出は支出9,056,486,200レヴァ、各種移転金(地方自治体、各省庁等)10,436,918,900レヴァ及びEU負担金979,871,600レヴァ(合計20,473,276,700レヴァ)を見込んでおり、赤字額は2,225,683,800レヴァとなる見込みである。

▶なお、税金については、法人税1,551,185,000レヴァ、所得税2,754,180,000レヴァ、付加価値税7,741,250,000レヴァ等を含む合計16,603,786,700レヴァを見込んでいる。

▶2015年における財政赤字額は対GDP比3%とされた。来年度の新たな政府債務は81億レヴァとされ、政府債務は2015年末までに対GDP比29.7%に相当する245億レヴァに達する見込みである。また、2015年度のGDP成長率は0.8%に下がる他、同年の失業率は11.7%に下がると予測している。なお、最低月額賃金は、2015年の1月に360レヴァ、同年7月に380レヴァとなり、2段階で20レヴァずつ増加する予定である。

(2) 格付

◆S&P：ブルガリア信用格付を「BB+/B」に引き下げ

▶12日、格付会社スタンダード・アンド・プアーズは、ブルガリアの長期及び短期信用格付を「BBB-/A-3」から「BB+/B」に引き下げた。格付見通しは「安定的」とした。同社は、今回の格付引き下げは脆弱な国内銀行システムへの政府の更なる支援の必要性や、低成長及びデフレによる財政悪化のリスクを反映したものとしている。同社は6月にも政治的不安定を理由として格付を引き下げしており、今回の引き下げは今年2度目となる。

◆フィッチ：ブルガリア長期信用格付を「B

BB- / BBB」で維持

▶22日の報道によると、格付会社フィッチ・レーティングスは、ブルガリアの長期信用格付を「BB-」（外貨建て）、「BBB」（自国通貨建て）に据え置いた。格付見直しは「安定的」とした。また、カンントリー・シーリング、短期IDRもそれぞれ「BBB+」、「F3」で据え置きとされた。

2. 経済政策、産業

（1）社会保障政策

◆2015年の退職年齢は据え置き

▶14日、政府及び労働組合は覚書に署名し、2015年の退職年齢は据え置きとすること、年金改革に関する問題の長期的解決方法を3月末までに模索することについて合意した。また、2015年から最低退職年齢が全労働カテゴリーで導入され、被保険者は早期退職を選択することが可能となる。

◆GERB提案による年金制度改革案の可決

▶19日夜、国民議会は2015年公共社会保険（PSI）予算案を可決した。本予算案には、GERB提案による年金制度改革案が含まれており、RBや野党BSP（ブルガリア社会党）等からの批判を受けていた。同改革案によると、年金制度の「第二の柱」（付加強制年金、1959年12月31日以降に生まれた人が対象）における新規被保険者は、加入後1年以内に自分の付加部分を従来通り民間年金ファンドに納めるか（積立方式）、国家社会保障機関（NSSI）に納めるか（賦課方式）を選択しなければならない。

▶本案は、賛成120（GERB、MRF、「ブルガリア民主センター（BDC）」の一部）、反対57（RB、愛国戦線、ABR、BSP及びBDCの一部）、棄権30により可決された。

（2）コーポレート商業銀行問題

◆コーポレート商業銀行の保証預金支払い開始

▶4日、11月6日に認可が取り消されたコーポ

レート商業銀行（CCB）の保証預金払い出しが、預金保険機構により選定された9つの銀行の1、100の支店で開始された。払い出し開始後8時間で約10億レヴァが2万5千名の預金者により払い戻され、9日までに払い出し額は約21億レヴァとなった。なお、保証預金の総額は37億レヴァである。

▶また、12日、CCBの子会社ヴィクトリア銀行が業務を再開した。同銀行は6月以降、中央銀行の特別監督下に置かれていた。

◆コーポレート商業銀行認可取消に関する裁判開始

▶15日、コーポレート商業銀行（CCB）の認可取消に関する裁判が最高行政裁判所で開始された。CCBの認可取消決定に関しては、11月19日、同行主要株主のツヴェタン・ヴァシレフ氏がプロマック社を通じ、手続き上瑕疵があるとして最高行政裁判所に提訴していた。

（3）EU関連

◆EU基金「地域開発」実施プログラムの支払再開

▶4日、ドンチェフEU基金・経済政策担当副首相は、EU基金「地域開発」実施プログラムの支払は遅くとも1ヶ月以内に再開されるだろうと発言した。ゲオルギエヴァ欧州委員会予算・人事担当副委員長は、ユンカー欧州委員会委員長とポリソフ首相との会談において、凍結されたEU基金の同実施プログラムの支払再開が話題になったと述べた。

▶昨年6月3日、欧州委員会地域・都市政策総局は、EU基金「地域開発」実施プロジェクトの管理機関に対し、2010年から2013年に行われた監査報告書に基づき、優先分野1「持続可能及び統合された都市開発」及び優先分野3「持続可能な観光開発」に対する資金供与を凍結していた。

（4）非EU諸国関連

◆ルカス経済相：中国・中東欧経済貿易フォーラム出席

▶16日、ルカス経済相は、ベオグラードで開催された第3回中欧・中国首脳会合（「16+1」）の枠組みで行われた中国・中東欧諸国経済貿易フォーラムに出席した。同経済相は、ブルガリアは中国及び中東欧諸国間の協力へのイニシアチブを非常に重視している、我々にとって、中国・中東欧諸国間協力の最も重要な帰結は、ブルガリアにおける中国投資の増加及び二国間貿易の促進である、と述べた。

▶また、ブルガリアはビジネス及び投資の目的地として、中国企業に多くの利点を提供できる可能性がある、と述べ、ブルガリアは最も財政赤字及び政府債務の少ないEU加盟国の一つであること、欧州の中で最も低税率であることを強調した。

▶ブルガリアは、自動車製造のグレート・ウォール・モーターズ、通信のファウェイやZTE、農業の天津国営農場集団のような中国企業のブルガリアでの活動を高く評価している。同経済相は、特に機械工学、自動車製造、電子機器、情報通信技術、化学及び医薬品、農業、食品産業、産業特区及びハイテクパークの建設のような高付加価値で高い競争力がある分野において、ブルガリアに投資意欲のある中国企業を支援する用意がある、と述べた。

（5）サウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画

◆プーチン露大統領によるサウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画の中止決定

▶1日、ロシアのプーチン大統領は、トルコでのエルドアン大統領との会談後の記者会見において、現状ではロシアはサウス・ストリーム計画を開始することができない、理由は、ロシアがブルガリアの許可を受領していないからである、と述べ、同計画の中止に言及した。また、同大統領は、ブルガリアに対し、本計画による年間4億ユーロの逸失利益の補填をEUに要求することを勧めた。

▶2日、ブルガリア政府は記者会見において、ブルガ

リアは本計画の中止に関するロシアの決定について公式な通知を受けていないとした。

◆サウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画中止決定を受けた政府反応

▶2日、プレヴネリエフ大統領は本件に関するプレス・リリースを発表し、以下の通り述べた。

▶サウス・ストリーム計画はロシアとブルガリア間の計画に留まるものではなく、ロシアとEU間の計画であることは誰にとっても明らかである。本計画に関する決定はロシアーEU間においてのみ行うことができる。本決定は完全にロシアとEUの手中にある。もしロシアがEU規則を遵守すれば、誰も本計画の遂行に反対しないだろう。一方、これまでロシアはEU規則を遵守しようとする意図を何ら示していない。現時点ではロシアは政治的声明を行ったのみであり、明確な立場が表明されれば、欧州委員会で議論が行われ、その後ブルガリア政府は立場を表明することになるだろう。それまで可能なのは政治的評価のみである。本計画によるブルガリアの収益は保証されていない。収益に関する契約はなく、署名されたのは本計画の費用に関する契約のみである。我々はベレネ原発計画のケースを繰り返したくない。

▶同2日、ドンチェフEU基金及び経済政策担当副首相は、本状況は欧州委員会に懸念を、ブルガリアに不安を引き起こしている、と述べた。同副首相は、プーチン大統領の言及した年間4億ユーロの逸失利益について、様々な理由から、ブルガリアは10年後になっても本計画により年間4億ユーロを得ることはないだろう、最近の数ヶ月間における本計画の価額は35億ユーロと見積もられている、ブルガリアはプロジェクト会社の50%を保有しており、参画費用は今後10年以上にわたり得られる手数料収入により賄う予定である、このため、（年間4億ユーロという）言及された金額は短期間では実現困難なものである、と述べた。

▶同2日、ブリュッセルでのNATO外相会合に出席中のミトフ外相は、ブルガリアは主権国家であり、国民議会及び政府は国民にとって最善の決定を行う、

サウス・ストリーム計画を中止するという決定は、ロシアがEU領域内で法を遵守するつもりがないということを示している、と述べた。

◆ペトコヴァ・エネルギー相とノヴァク露エネルギー相との電話会談

▶19日、ペトコヴァ・エネルギー相は、ノヴァク露エネルギー相と電話会談を行い、エネルギー分野における両国間協力の重要な点につき意見交換した。▶

ペトコヴァ・エネルギー相は、ロシアはエネルギー分野におけるブルガリアの重要なパートナーであると述べ、サウス・ストリーム計画に対するブルガリアの公式な立場として、同計画が天然ガス供給多様化、経済回復及び雇用創出の観点から、ブルガリアにとって重要なプロジェクトである旨説明した。ペトコヴァ・エネルギー相は、(サウス・ストリーム計画に関する)ロシア側の決定については未だブルガリアに正式に通知されていないとし、本件はエネルギー分野における両国の戦略的パートナーシップという文脈においてブルガリアにとって重要な問題であるとした。

▶また、ペトコヴァ・エネルギー相は、ボリスフ首相が欧州委員会に対して提案したヴァルナにおけるガス配給ハブ施設の建設構想についても説明した。これに対し、ノヴァク・エネルギー相は、欧州委員会からかかる提案は正式になされていないとしつつ、もし、欧州委員会から提案を受ければ検討する用意があると述べた。

(6) エネルギー関連

◆ギリシャ、ルーマニアとの天然ガス縦回廊に関する共同声明の署名

▶9日、ブルガリア、ギリシャ及びルーマニアはブリュッセルにおいて、三国を連結する天然ガス「縦

回廊」に関する共同声明に署名した。なお、オーストリア、ブルガリア、クロアチア、ギリシャ、イタリア、ルーマニア、スロベニアのエネルギー相又は代表及びシェフチョビッチ・エネルギー同盟担当欧州副委員長は、同地において、中・南東欧の天然ガスインフラの優先事項やロシアのサウス・ストリーム計画中止について議論するための会合を行っていた。

◆ガス配給ハブ施設建設の提案書簡を欧州委員会に送付

▶12日、政府はシェフチョヴィチ・エネルギー同盟担当欧州委員会副委員長に対し、黒海沿岸のヴァルナでのガス配給ハブ施設の建設を提案する書簡を送付した。

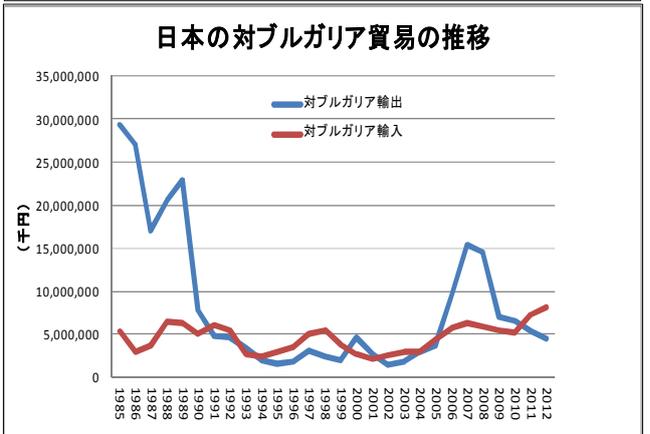
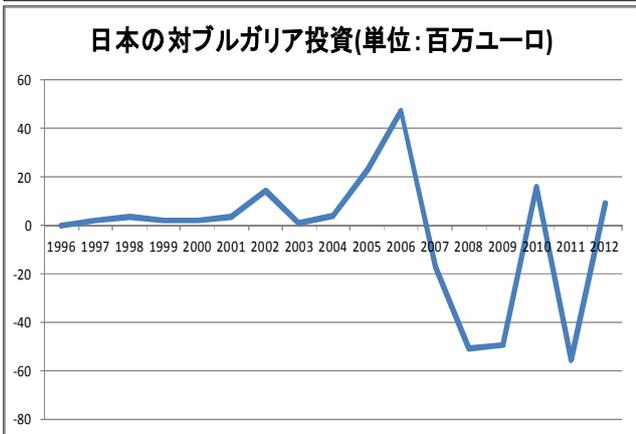
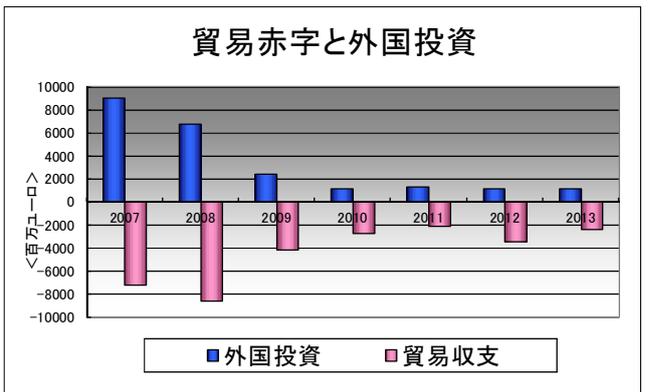
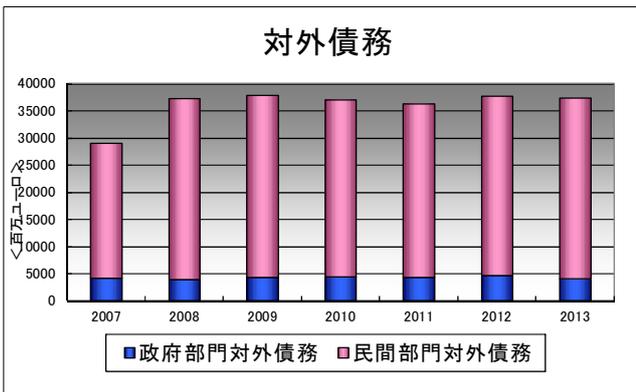
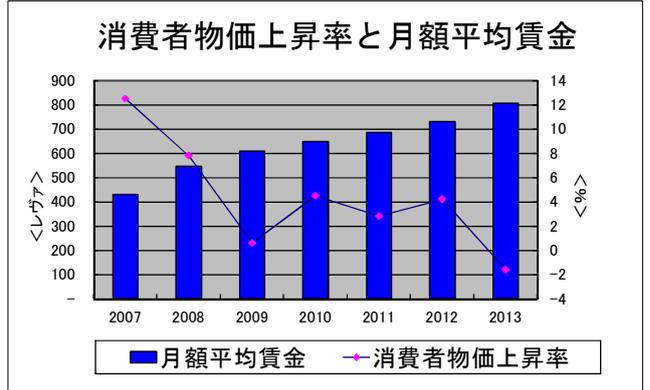
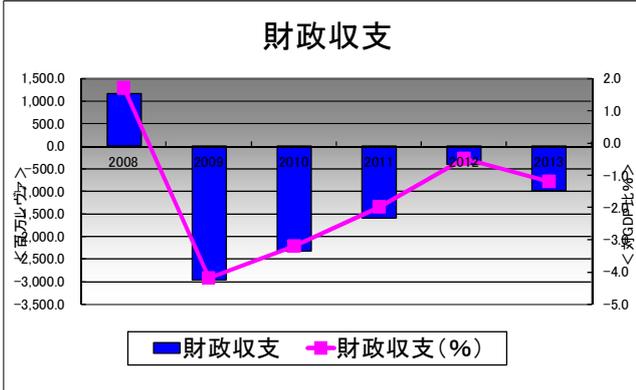
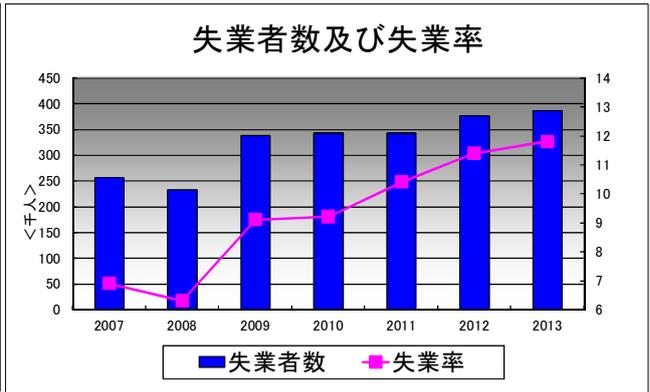
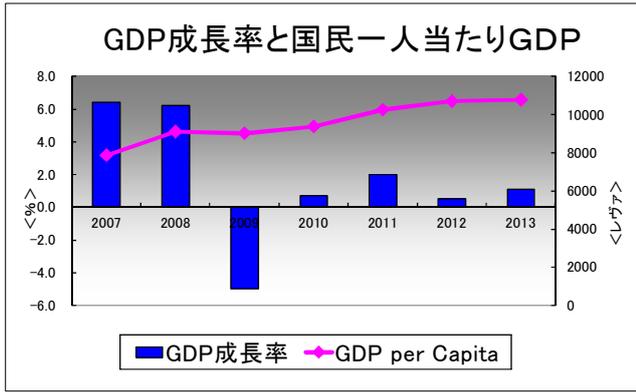
▶ドンチェフEU基金・経済政策担当副首相は、本提案はエネルギー同盟のコンテキストにおいて非常に良いものであると考えている、本提案は第2、第3のサウス・ストリーム計画ではなく、全く異なるロジックによるものである、と述べた。同ハブ施設は、当該地域のEU加盟国及び近隣諸国へのガス配給ハブ施設となり得るだけでなく、トルコやギリシャとの相互連結管を通じて同国のLNGターミナルのみならずカスピ海や中東地域のガスと連結することを可能にする、としている。

ブルガリア内政・外交の動き (12月)

在ブルガリア大使館

1 (月)	☆プーチン露大統領によるサウス・ストリーム天然ガスパイプライン計画の中止決定
2 (火)	☆ミトフ外相：NATO外相会合出席
3 (水)	
4 (木)	●コーポレート商業銀行の保証預金支払い開始 ☆ボリスフ首相：ブリュッセル訪問 ★グエン・ベトナム国家副主席：ブルガリア訪問（～5日）
5 (金)	
6 (土)	
7 (日)	
8 (月)	
9 (火)	☆ブルガリア、ギリシャ、ルーマニアによる天然ガス「縦回廊」に関する共同声明署名（於：ブリュッセル）
10 (水)	
11 (木)	
12 (金)	
13 (土)	
14 (日)	☆ミトフ外相：EU外務理事会出席（～16日）
15 (月)	☆ボリスフ首相：ドイツ訪問
16 (火)	☆バチヴァロヴァ副首相：第3回中欧・中国首脳会合出席（～17日）（於：ベオグラード） ☆ルカルスキ経済相：中国・中東欧経済貿易フォーラム（於：ベオグラード）
17 (水)	☆ポポヴァ副大統領：モロッコ訪問（～18日）
18 (木)	☆ボリスフ首相：欧州理事会出席
19 (金)	●2015年度国家予算案の可決
20 (土)	
21 (日)	
22 (月)	
23 (火)	
24 (水)	
25 (木)	
26 (金)	
27 (土)	
28 (日)	
29 (月)	
30 (火)	
31 (水)	

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局, 中央銀行)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	Q2	Q3
GDP成長率 (%)	6.2	-5.0	0.7	2.0	0.5	1.1	1.1	2.1	1.9
GDP per Capita (BGN)	9,090	9,007	9,359	10,248	10,689	10,752	-	-	-

< 財政収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	Q2
財政収支 (million BGN)	1,156.7	-2,960.6	-2,328.0	-1,589.7	-405.1	-989.1	-404.5	235.2
財政収支GDP比 (% of GDP)	1.7	-4.2	-3.2	-2.0	-0.5	-1.2	-0.5	0.3

< 失業者数及び失業率 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct	Nov
失業者数 (千人)	232	338	342	342	376	386	401	401	399	387	367	351	347	343	345	351	354
失業率 (%)	6.3	9.1	9.2	10.4	11.4	11.8	12.2	12.2	12.2	11.8	11.2	10.7	10.6	10.4	10.5	10.7	10.8

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct	Nov
消費者物価上昇率 (%)	7.8	0.6	4.5	2.8	4.2	-1.6	-0.2	-0.4	-0.2	0.3	-0.5	-0.4	0.4	-0.2	-0.2	0.9	-0.4
月額平均賃金 (BGN)	545	609	648	686	731	808	794	780	813	834	816	802	815	793	820	-	-

< 対外債務 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct
政府部門対外債務 (million EURO)	3,935.9	4,208.3	4,326.9	4,205.0	4,578.9	4,062.4	4,100.7	4,087.8	4,080.0	4,036.8	3,986.4	4,011.7	5,284.1	5,317.7	5,360.8	5,461.9
民間部門対外債務 (million EURO)	33,310.6	33,608.2	32,699.4	32,089.8	33,134.6	32,862.0	32,892.2	32,670.5	32,723.3	32,838.7	32,974.8	33,176.0	33,082.4	33,124.8	33,125.9	33,214.8

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct
対内直接投資 (million EURO)	6,727.8	2,436.9	1,151.2	1,330.2	1,141.7	1,275.1	90.0	263.2	508.9	539.8	539.1	561.1	640.0	915.2	587.6	804.9
貿易収支 (FOB) (million EURO)	-8,597.7	-4,173.9	-2,763.7	-2,156.1	-3,460.3	-2,430.0	-354.2	-562.9	-861.8	-1,206.0	-1,437.7	-1,582.0	-1,668.2	-1,827.2	-2,108.7	-2,345.8
輸出 (FOB) (million EURO)	15,204.0	11,699.2	15,561.2	20,264.3	20,770.2	22,271.4	1,582.6	3,234.3	4,868.0	6,631.1	8,421.2	10,310.8	12,362.9	14,309.1	16,315.8	18,380.6
輸入 (FOB) (million EURO)	23,801.7	15,873.1	18,324.8	22,420.4	24,230.4	24,701.4	1,936.8	3,797.1	5,729.8	7,837.1	9,858.9	11,892.8	14,031.1	16,136.3	18,424.5	20,726.4